

津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2025. 1. 8 NO.42

新年はチャンスだ あの山のように君らはも一度天地に立て！



コロナ禍で昨年までは客が入らず、旅館や飲食店などで「店じまい」をするとよく耳にしました。何かを終えることを「〇〇じまい」と言います。年末の多忙さやSNSの普及、今年は郵便料金の値上げなども「年賀状じまい」に拍車をかけたのではないかと思います。年賀状の販売枚数もピーク時の4分の1になったと言われています。かつては1枚1枚年賀状を書いたり、大掃除をしたりしながら“新年を迎えるに心の準備”をしていたように思います。

2学期終業式のあと、大急ぎで各学級をまわり教室の様子を撮影していた時、ある学級で「お年玉ちょうだい」と言われました。私

は丁度よい機会と思い“お年玉の由来”（一説）“大掃除の意味”“新年を迎えるとは”という内容について子どもたちに話をしました。子どもたちはどの子も真剣に話を聞いてくれました。ある心理学者は「年が暮れ、新しい年の始まる時は新鮮な決意をする動機づけとなる」と述べています。一般には新年を迎えるときであり、学校ではもう一つ、4月、新年度がはじまる時の2回あるのかもしれませんが。「新年はチャンスだ あの山のように君らはも一度天地に立て！」とは詩人・彫刻家の高村光太郎さんの「岩手山の肩」の一節です。高村さんは空襲でアトリエを焼失し花巻市に疎開した際に岩手の人にこの詩を通して、困難の中で希望を見出しながら生き抜くことの大切さを込めたとされています。現代の世の中は困難と不安にあふれています。子どもたちの前にまずは私たち大人が「さあ、いよいよ」との気持ちで新年を自分なりの決意を持ちスタートさせていくことができるかどうか…。子どもたちに言葉で教えるだけではなく、姿を通して教えていくことも大切ではないでしょうか。3学期は1年の総仕上げの学期です。ホップ（1学期）、ステップ（2学期）、ジャンプ（3学期）をして翌年に向かって飛躍していく学期です。新年早々、偉そうなことを書きましたが、3学期も学校教育にご理解・ご協力をお願いします。（画像は <https://www.dokuritsu.or.jp/sakuhin/31961/>より）

幣舞橋(ぬさまいばし)の銅像



札幌の豊平川・旭川と並んで北海道の三大名橋と言われる釧路の幣舞橋（ぬさまいばし）という橋があります。夕日をバックに撮影するスポットとしても有名な場所で朝日や夕日の写真を撮るのが好きな私は以前より行ってみたいと思っています。でも、遠すぎますが…。その幣舞橋には「道東の四季」を表現する4体のブロンズ像があるそうです。春夏秋冬をそれぞれ船越 保武氏、佐藤忠良氏、柳原

義達氏、本郷 新氏の4名の彫刻家が担当し、作品を制作したとされています。その中の船越保武氏は若い頃、師匠の“のみ”はさびないのに自分の“のみ”は錆が出ていることに気づいたそうです。そのことを師匠に尋ねると「使っていればさびない」といったそうです。私たちは毎日同じようなサイクルで生活を送っています。毎日毎日立ち止まっていたは大変ですが、時々、立ち止まって自分や自分の行動について考えることは大切であると思います。職人の“のみ”と同じように錆が発生しないように私自身気をつけていきたいと思いました。（画像：釧路観光サイト）